

視野が広がった 2 年間

坪田 めぐみ

(札幌市立平岡公園小学校)

現在教師歴 3 年目。昨年度卒業生を出し、今年度は元気いっぱいの小学 3 年生 36 人と、楽しく充実した毎日を送っています。連合教職大学院を修了し、初めて教壇に立った時、教職大学院で学んだことを心からよかったと思った点が 2 つあります。

1 つ目は、学部では学べなかった深い教育に関する知識を、日々の講義や仲間達との論議から身につけていたことです。もちろん大学でも学んでいたはずなのですが、実際に個別指導の必要な児童のケース会議を行ったり、大きな教育問題に関するディベートを行ったりという経験はありませんでした。知識を学び、それを専門実習で実践できる時間があったからこそ、子どものどういう点をみとっていけばいいのか、支援の必要な子たちにどのようにかかわっていけばよいのかなど、不安だった点に関して、ある程度自信をもって今働くことができているように思います。知らなかったことを知る喜びを感じ、恥ずかしながら、学ぶことの大切さを身をもって感じたのも大学院に入ってからでした。

しかし、私は知識もさることながら、人間的に大きく成長させてもらうことができた 2 年間だったと思っています。とても有益だったと思うのは、仲間達の存在です。年齢も違う、専門も違う、考え方も違う。唯一の共通点は教育をよくしたいと同じ方向を向いていること。そんな仲間達と毎日語り合っていました。当然のことながら様々な視点から多くの意見が出され、それをまとめて 1 つのものを創りあげて行くのは至難の業です。しかし、学校経営を行っていく一人として働いている今、ああやって考えを練り上げていく力は現場にとって必要なのだと感じています。自分の考えや思いを伝える大事さに加え、相手の意見を共感的に聴きどのように返していくのかを日々考えるようになりました。まさに、未来を担う子どもたちに必要とされるコミュニケーション能力です。私は実感を伴って子どもたちに指導することができていると感じています。また、その仲間達とは今もつながり、情報を交換し合ったり、相談し合ったりしています。本当に良い縁だったと思います。

2 年間。とても短い期間でしたが本当に濃い 2 年でした。これからの教師生活の土台を築いてくれ、自分の視野も大いに広げてくれました。これからも自ら学び、たくさんの人とかかわって自ら考える、そんな教師を目指して行きたいと思っています。

(生徒指導力高度化コース第 1 期生)